

令和 6 年 度

中学校外国語科における実践研究

—諸調査結果等を活用し、課題を解決するための効果的な指導法についての提案—

黒石野中学校	大澤郁恵
見前中学校	伊藤諒
渋民中学校	中坂明子
学校教育課指導主事	山内浩

令和 7 年 1 月
盛岡市教育研究所

目次

I	研究主題	1
II	研究の目的	1
III	研究内容と方法	1
IV	研究の組織	1
V	研究の実際	1
	【実践①】	6
	【実践②】	9
	【実践③】	12
	実践のまとめ	15
VI	研究のまとめ	16

I 研究主題

中学校外国語科における実践研究 —諸調査結果等を活用し、課題を解決するための効果的な指導法についての提案—

II 研究の目的

諸調査の結果から明らかになった課題について、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の言語活動を通じた授業づくり、授業改善実践例を示すことにより、盛岡市の中学校外国語科における学力向上を目指す。

III 研究内容と方法

1 研究の内容

- (1) 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じたコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について
- (2) 単元や題材など時間や内容のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

2 研究の方法

(1) 理論研究

- ア 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じたコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について
- イ 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

(2) 実践研究

- ア 諸調査の結果についての分析
- イ 諸調査の結果から明らかになった課題に関わる指導の手立て及び単元デザインについての協議
- ウ 協議に基づく授業実践
- エ 授業実践の提案と考察

IV 研究の組織

	氏 名	所 属
班 長	中坂 明子	渋民中学校
副班長	伊藤 諒	見前中学校
班 員	大澤 郁恵	黒石野中学校

V 研究の実際

1 理論研究

- (1) 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じたコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について

中学校学習指導要領解説【外国語編】には、外国語科の目標として次の通り示されている。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

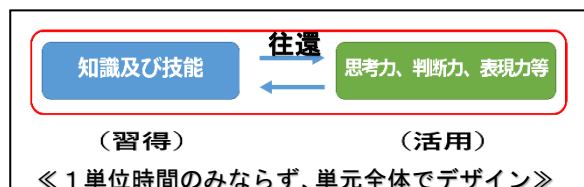
外国語の語彙や文法等の個別の知識は、それらが単独でどれだけ身に付いたかではなく、実際のコミュニケーションの中において運用されるものである。さらに、目的・場面・状況に応じて、繰り返し思考、判断、表現されることを通じて、語彙や文法等の定着が図られる。また、目標にも示されているとおり、コミュニケーション能力は、実際のコミュニケーションを通して身に付けるものである。

【授業改善に向けて】「言語活動を通して」、外国語活動・外国語の目標、領域別の目標の達成に向けて指導すること

【今年度の重点】 1

○言語活動を通して、児童生徒が「伝えたい内容」と「内容を表すための英語表現」の両方について思考・判断するなど、使いながら言語材料等の定着が図られるよう工夫すること（令和6年度学校教育指導指針 各教科等の指導の要点 外国語活動・外国語より）

次に、「言語活動」について確認する。外国語科における「言語活動」は、①知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を育成するために取り組ませるもの（下図参照）、②実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動、と定義されている。



語彙や文法を身に付けてから表現する、という指導観から脱却し、まずコミュニケーションから入り、その中で気付きや必要性を感じながら知識・技能を習得させていくことが求められている。

一方で、必要に応じて言語材料の理解や定着のための練習も必要であり、「わかって」、「使える」質の高い知識や技能を身に付けさせるためには、「しっかりと学ぶ」こと、つまり、学ぶ内容を断片的に覚えこむのではなく、つなげて、まとめて、自分なりに納得する学びも必要である。基礎・基本の習得とそれらの活用のバランス、順序性が鍵であり、1単位時間のみならず、単元全体の中で、それらを効果的にデザインすることが重要である。

(2) 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

令和6年度学校教育指導指針では、授業改善の方向性として、次のように示されている。

【授業改善に向けて】

「内容のまとまりごとの評価規準」を設定し、「指導と評価の一体化」を一層推進すること

【今年度の重点】2

○単元の評価規準に基づき、バックワード・デザインによる指導計画とすること

○予め設定した評価場面や評価方法に基づき、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす評価を行うこと

外国語科における「内容のまとまり」とは5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り／発表〕、書くこと）を指す。従来のように教科書をページ順に扱うのではなく、「生徒が単元や内容のまとまりの中で、英語を用いて何ができるようになる」のかを意識した目標と指導と評価の計画を作成し、授業を行うことにより、ねらいや指導事項が精選され、適切な指導へとつながる。

また、中学校学習指導要領解説【外国語編】には、外国語教育における学習過程として次のとおり示されている。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

このような学習過程を経て、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、外国語を活用して表現したり、伝え合ったりする授業を行うことにより、外国語科における「思考力、判断力、表現力等」を養うことができる。

同時に、主体的に学習に取り組む態度や「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」も、この学習過程における、よりよく相手に伝えるための粘り強い取組や自己調整により育まれる。

このように、資質・能力をバランスよく、総合的に育成していくという観点からも、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した指導計画と授業づくりは不可欠である。

2 諸調査の結果概要

(1) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

本調査は、3学年で実施された。出題内容は2学年（前年度）までの学習内容である。

※英語調査は3年に1回、次回は令和8年度

領域 \ 正答率	盛岡市	全国	全国比
全体（聞・読・書）	40.0	45.6	87.7
聞くこと	53.6	58.4	91.7
読むこと	46.0	51.2	89.8
話すこと	9.0	12.4	72.5
書くこと	16.1	23.4	68.8
知識・技能（聞・読・書）	44.3	51.5	86.0
思考・判断・表現（聞・読・書）	35.0	38.8	90.2

【領域別・観点別集計結果】

領域別の平均正答率は、全国と比較すると、全体で5.6ポイント、領域別では、「聞くこと」で4.8ポイント、「読むこと」で5.2ポイント、「書くこと」で7.3ポイント下回った。また、観点別では、「知識・技能」で7.2ポイント、「思考・判断・表現」で3.8ポイント下回った。

小問内容 \ 正答率等	盛岡市	全国	無答率
ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	70.4	79.0	0.2
図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	50.1	59.8	0.4
ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。	13.6	19.5	36.7
動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える。	11.4	19.0	22.7

【小問別正答率・無答率】

（全国比を大きく下回っているもの・無答率の高いもの）

設問別では、「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」「図書館について書かれた英文を読み、文中の

空所に入る適切な語句を選択する」「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」で、全国平均正答率を大きく下回り、また無回答率が全国と比べて高かった。

《考察1》

- ・領域別「聞くこと」においては、一度で内容を正確に聞き取ることや目的に応じて必要な情報を聞き取ること、「読むこと」においては、文と文の関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることに課題がみられた。
- ・「話すこと」においては、全体的に正答率が低く、全5問中1問も正解できなかった生徒が7割近くいた。基本的な知識をやり取りの場面において実際に活用できる技能を身に付けることが求められている。
- ・無回答率の特徴としては、「読んだことをもとに自分の考えを書く」などの技能統合的な力が求められる問題で高い傾向にある。
- ・学校の授業改善においては、基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着、目的や場面、状況などに応じて言語を運用する「思考力、判断力、表現力等」の育成、そして両者のバランスが求められる。

(2) 英検 IBA の結果

本調査は、2学年で実施された。公益財団法人日本英語検定協会が提供する「英検 IBA」のテストD（英検3～5級レベル）を活用し、4技能のうち、「Listening」「Reading」についての英語力を調査する。

※令和6年度からは、1学年で実施される。

領域等 \ 平均正答率	2023 年 (令和5年度)	2022 年 (令和4年度)
平均スコア	670.0	665.0
語彙・熟語・文法	68.3	68.0
読解	45.8	54.3
リスニング	63.0	62.9

平均正答率 領域等	2021 年 (令和3年度)	2020 年 (令和2年度)
平均スコア	677.6	702.9
語彙・熟語・文法	71.8	75.0
読解	56.6	63.4
リスニング	64.0	68.8

【領域別・観点別集計結果】

平均スコアが、2020 年から 2 年連続で低下、特に、2020 年から 2021 年にかけては 25.3 ポイント下がっている。2023 年には、5 ポイント上昇した。

領域別の結果においても 2021 年度と比較し、全ての領域で正答率が低下している。2023 年度は、「語彙・熟語・文法」「リスニング」で少し上がった反面、「読解」が、8.5 ポイント低下している。

(3) 質問紙調査の分析

①【表 1】について

これは、令和 5 年度全国学力・学習状況調査における生徒質問紙調査の結果である。「英語が好き」と答えたのが全国を上回っているほか、英語を学んだり、使ったりすることの有用性を意識している生徒が多いことも分かる。

※数値は、「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」の合計

※令和 6 年度調査においては実施されていない。

【表 1】

肯定的回答 質問事項	盛岡市	全国
英語の勉強は好きですか	54.0	51.9
英語の勉強は大切だと思いますか	87.1	88.0
英語の授業の内容はよく分かりますか	62.8	63.9
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	86.2	87.5

②【表 2】について

これは、令和 6 年度全国学力・学習状況調査における生徒質問紙調査の結果と学校質問紙調査の結果を比較したものである。

【表 2】

肯定的回答 質問事項	生徒回答	学校回答
英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたか／を行ったか	83.2	100
英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたか／を行ったか	85.0	100
スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたか／を行ったか	79.8	91.3
自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたか／を行ったか	86.6	95.6

生徒の受け止めと学校の指導状況との間に、「聞くこと」で 16.8 ポイント、「読むこと」で 15.0 ポイントなどのギャップが見られる。

《考察 2》

- ・単元の指導における「言語活動」と「言語材料の理解や練習のための指導」のバランスを図ることが求められる。
- ・現行学習指導要領について、目標や内容等の理解が不十分であり、その趣旨を踏まえた授業改善に至っていない。
- ・外国語科における学習意欲の高さを、いかに英語力の向上につなげていくかが課題である。
- ・言語活動の目的や場面、状況等が明確に設定されておらず、生徒が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できていない可能性がある。

このように、諸調査結果を活用して、平均正答率や質問紙調査を実態と照らし合わせながら分析したり、両者の間に一定の関係が見られる項目を確認したりすることで、授業改善の手がかりを得ることができる。

3 課題を解決するための効果的な指導法

諸調査結果及び市内中学校における英語授業の実態を踏まえ、課題を【表A】の通りまとめた。

【表B】は、【表A】①～⑭の諸課題を解決するための指導改善案を一覧にしたものである。

【表A】

		英語指導における現状と課題
資質・能力	知識及び技能	①基礎的・基本的な語彙・表現等の定着及び強化。 ②インプット、アウトプットさせる量が十分ではない。 ③小学校の既習内容についての理解が十分ではない。
	思考力、判断力、表現力等	④生徒にとって「自分事」と捉えられる言語活動のテーマを設定できていない。(生徒が主体的に活動に取り組んでいるか。) ⑤活動や学習過程を生徒と共有していない。
	学びに向かう力・人間性等	⑥「振り返り→修正・共有→再構成」のサイクルを1回で終わらせている。 ⑦生徒に自分自身の成長を実感させる場を設けていない。
4 技能・5 領域	聞くこと	⑧「視点」(音声面や内容面)を与えた上での聞き取りをさせていない。
	読むこと	⑨目的別(必要な情報、概要、要点)の読み取り方を指導していない。(問いに答え、内容理解に終始する読み取りになっていないか。)
	話すこと [やり取り]	⑩生徒の表現の幅(引き出し)増やすための指導を行っていない。 ⑪生徒が伝えたいことを簡単な表現で言わせる指導を行っていない。 ⑫「言いたいけど言えない」という経験を生徒に積ませていない。
	話すこと [発表]	⑬話題(日常的・社会的)に応じた話し方の指導を行っていない。(即興・メモ・マッピング・原稿作成の使い分け)
	書くこと	⑭生徒の抵抗感を払拭するための工夫が必要。(無答が多い。苦手意識をもつ生徒が多い。小学校で学んだ表現を使わせ自信をもたせる。)
課題を解決するために有効だと考えられる3つの授業改善案を提案		

【表B】

解決課題	① ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩ ⑬	① ③ ⑦ ⑩ ⑪ ⑭	① ② ⑨ ⑫ ⑭
提 案	生徒の考えや想いに基づいて作成した3年分の年間計画をもとにした「話すこと(発表)」の力を伸ばす授業づくり。	小学校既習表現を生かして、自分の考えや気持ちを表現する言語活動を位置付けた展開例	音声に力点を置いた言語活動を踏まえ、RetellからRewriteを積み重ねながら、伝えたいことを整理し、相手意識をもってまとめた量を「書くこと」の力を高める授業づくり。
◆キーワード	◆年間ゴールの共有、単元デザイン、ICT活用、思考を深めるための視点	◆小中連携、語彙指導、音声から文字への移行、コミュニケーションの基礎	◆音読の工夫、発信活動の段階的指導(文構成、追加情報、既習表現、相手意識)
目 標	(4) 話すこと [発表] イ	(4) 話すこと [発表] ア	(5) 書くことイ
内 容	オ 話すこと[発表](イ) (エ 話すこと[やり取り](ア)) ・振り返り、修正、再構築のサイクルを意識した活動 ・個別最適な学びと協働的な学びの時間確保	オ 話すこと [発表] (ア) (カ 書くこと (ア)) ・小学校表現を生かした自己表現指導 ・コミュニケーションの中で英語表現定着を図る	カ 書くこと (ウ) (ウ 読むこと (ア)) ・意味内容にふさわしい音読指導 ・Retell、Rewriteの計画的継続的指導と再構成
単 元	PROGRAM 5・6、Our Project2	Our Project 2	PROGRAM 5・6・7
提 案 者	中坂 研究員(渋民中)	伊藤 研究員(見前中)	大澤 研究員(黒石野中)
掲 載 頁	6～8 ページ	9～11 ページ	12～14 ページ

※授業改善案の詳細については、次頁より示す。

実践 ① 話すこと【発表】	「事実や気持ちを整理し、相手に伝わる魅力的な発表をすること」 改善のための授業アイデア例【年間ゴール、思考を深めるための視点】
	◎学習指導要領目標 (4) 話すこと【発表】 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
	○学習指導要領言語活動の例 オ 話すこと【発表】 (4) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。 (エ 話すこと【やり取り】 (7) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。)
(単元名) PROGRAM 5 Junior Safety Patrol、PROGRAM 6 The Way to School Our Project 2 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂) 他 各 PROGRAM の Scenes や Think で指導することも可	

R5 全国学調における本校生徒の実態として、「話すこと」の正答率が低かった。特に、日常的・社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す設問の無回答率が高かった（日常的:25.6、社会的:35.9）。話すことに苦手意識をもつ生徒が多い現状に対して、次の実践を行った。

3年間を見通した「年間ゴール」を生徒と設定・共有する。

目的、場面、状況を明確にし、生徒の「考え」や「想い」を取り入れた1、2、3年次の年間ゴールを生徒と設定・共有する。

《生徒と作成した年間の単元デザイン》[やり取り][発表]に関して

3年生 [やり取り]： 外国の人(観光客)に盛岡のよさを直接紹介する。			
具体的な活動内容	表現力	知識	即興力・対応力
盛岡に来た外国人観光客に、ガイド役としてやり取りすることを通して渋民や盛岡のよさを伝える。	・相手が楽しめるように ・会話が広がるように	・正しく伝える力	・相手が求めていることに 対応する力

2年生 [発表]： 盛岡の CM を作り ⇒ 盛岡に来て間もない ALT に見せる。			
具体的な活動内容	表現力	知識	内容の工夫・相手の求めていることを察する
3年次にガイドができるよう、盛岡や渋民のよさが伝わるよう、CM を作る。外国人観光客が盛岡に来る理由を考えて紹介ができる。	・見ている人が楽しめるよう、自分達ならではの CM。	・正しく伝える力。	・相手が何を求めて盛岡に来ているか考える。

1年生 [やり取り]: (新しく来た ALT に) 自己紹介⇒[発表]: (クラスメイトに) お気に入り紹介			
具体的な活動内容	表現力	知識	内容の工夫
2年次に渋民・盛岡の良さを伝えられるよう、自分のお気に入りについて相手が興味をもって聞いてくれるよう発表する。	・見ている人が楽しめるように。	・正しく伝える力。	・相手に何を伝えたいか、どうやったら伝わるか考える。

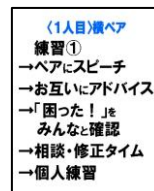
ゴールに向けた活動を支える ICT の活用

- ・単元デザインで決めた年間ゴール達成に向け、生徒自身が進捗状況を客観的に見る。
- ・練習時の自分の姿を記録し、振り返り→修正→練習のサイクルをつくる。
- ・紹介時に必要な情報や画像の収集など、相手意識をもちながら自ら情報を選択する。
- ・生徒が自分の学習状況に合わせて学び方を選択できるよう、生徒が自ら学習法を選択する際に、学習者用デジタル教科書や Google 翻訳を活用する（マイク付きヘッドセット使用）。
- ・振り返りをロイロノートで全体共有し、クラスメイトから新たな視点や工夫の仕方を学びながら、自身の学びを調整する。



思考を深めるための視点の共有

思考を深めるため、表現力を「表現の工夫」「内容の工夫」の2つに分類し、練習時に活用できるようにする。教師による3段階の自己紹介モデルを提示し、どのモデルがよかったか、何がよかったかを生徒自身の気付きから分類した。「話し手」「聞き手」双方がこの指標に基づき、相談、アドバイスをし合った。



視点を共有し、何度も振り返りを行うことで、生徒達自身が改善点に気付き、具体的な相談やアドバイスをするようになる。初めは「表現の工夫」に注目する生徒が多いが、練習を重ねていくごとに「内容の工夫」にも目を向けるようになる。教科書等から既習事項を探して、それらを参考にしたり、簡単な表現で言い換えて話せないか工夫したりするようになった。

生徒のスピーチ (1回目)	生徒のスピーチ (ペアのアドバイス後、2回目)	生徒のスピーチ (ペアのアドバイス後、3回目)
This is Takayuki Kato. He is a professional baseball player. He is pitcher. He... he is ..左投げ..left hand ボーン. He is my 目標.	This is Takayuki Kato. He is a professional baseball player. He is pitcher. He... can use left hand. He is my goal.	This is Takayuki Kato. He is a professional baseball player. He is pitcher. He... throws(←ジェスチャー付き) with left hand. He is my goal.

8月に赴任したばかりのALTの先生に自分のことを覚えてもらうため、「やり取り」をしながら自己紹介を行った際の振り返り。練習やロイロノートで動画を撮った際はできていたことも、直接話すとうまくできないと振り返る生徒が多かった。「内容の工夫」について考える生徒も若干名いたが、第1回「自己紹介」活動の段階では、「表現の工夫」についての記述が多い。実際にALTと一対一で会話をしたことで、生徒達にとって現時点の英語力を実感する活動になり、次のステップへの意欲づけになったと感じる。

第1回「自己紹介」 目線→A、流暢さ→A 内容の面白さ→A、意欲→A 良かったところ - 練習の時からジェスチャーをつけてた - 内容と質問に対する答えがどう返ってくるかを考えて練習しまくった 次に向けての課題 - もっと内容を凝りたい	第1回「自己紹介」 目線→A、流暢さ→B 内容の面白さ→B、意欲→C 良かったところ - 目線を相手に離さなかった事 - 話を出来るだけ広げた事 次に向けての課題 - ジェスチャーをしっかりと使って会話をする事 - 相手が楽しく話していることを楽しんでいること	第1回「自己紹介」 目線→A、流暢さ→B 内容の面白さ→B、意欲→B 良かったところ - 目線をそらすず、相手のこと見て話した。 - 話が途切れなかった。 次に向けての課題 - もっとジェスチャーを増やしてわかりやすく伝える。 - 相手が面白いと思ってくれるような内容にする。	第1回「自己紹介」 目線→a、流暢さ→b 内容の面白さ→b、意欲→b 良かったところ - ジョセフの服をじっくり見れた！ 次に向けての課題 - 話している途中で言葉が詰まったから、次はもっと練習してつまらない様にしたい。 - ジョセフからの質問にうまく答えられなかったから、質問にもそそえない。
--	---	---	---

PROGRAM6 The Way to School (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

《 授業の展開 例 》

過程	学習内容と活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 あいさつ 2 Small Talk 【やり取り】 3 復習①(前時の単語練習) 4 学習課題の把握	・あいさつをする。 ・聞き手を意識して練習に取り組ませる。	ロイロノート準備 ペア ペア
自分のお気に入りの人や物のよさが相手に伝わるスピーチをしよう。			
展開 44分	5 前回パフォーマンステストの確認(自己紹介の振り返り) 6 練習 【発表】 〈スピーチ①〉 練習 →ペアでスピーチ →互いにアドバイス →全体で共有 →スピーチ内容の再構成 →個人練習 〈スピーチ②〉 相手にみてほしい所言う →ペアでスピーチ →互いにアドバイス →個人練習・再構成 〈スピーチ③〉 相手にみてほしい所いう →ペアでスピーチ →互いにアドバイス →ロイロノートを使って気づいたことをまとめる	・自己紹介の活動で自分が課題と感じたことを、ペアと共有する。 (表現の工夫、内容面) ・課題解決の見通しを持って学習することができるように、どうすれば目標に近づけるか問う。 ・教師によるモデル提示を行い、表現の工夫、内容面においてスピーチをどのように工夫するとよいかペアで考えさせる。 ・お気に入りの良さを伝えられるように、ICTを用いて調べたり、相手に伝わるかどうか確かめたりすることができるようペア(グループ)ワークの場を設定する。 ・よりよい表現を目指して言語活動ができるよう、ペアでのスピーチ後、それぞれの課題が改善されたか、表現の工夫や内容面の視点をもとに、振り返りの場を設ける。 ・必要に応じて過去のスピーチ動画や教師のモデルを提示。	ペア、全体 ペア、(グループ)(全体) ペア、(グループ)(全体) ロイロノート(回答の共有)
終末 1分	7 学習のふり振り返り 8 次の時間の確認	・教師によるモデル提示を行う。	

生徒の振り返り (ロイロノート提出 BOX より抜粋)

「話すこと(発表)」を目標とした振り返り。一方的に発表するだけでなく、聞き手を意識したスピーチをしようと、表現方法だけでなく、スピーチの内容面で工夫しようとする生徒が増えてきた。

第 1.5 回「お気に入り紹介」の後の練習 目的：人や物のよさを伝えられるように 配慮：クラスメートに伝える→伝わりやすいか考える アイコンタクト → ●・B・C 英語らしい話し方 → ●・B・C 内容の面白さ・工夫 → ●・B・C つなげる努力 → ●・B・C 良かったところ(自分の考え+仲間からのアドバイス) ・ジェスチャーで頑張った ・どうやら相手に伝わりやすいか考えた 次に向けての課題 → 提出BOXへ ・止まらずに話しきりやべる	第 1.5 回「お気に入り紹介」の後の練習 目的：人や物のよさを伝えられるように 配慮：クラスメートに伝える→伝わりやすいか考える アイコンタクト → B 英語らしい話し方 → B 内容の面白さ・工夫 → B つなげる努力 → A 良かったところ(自分の考え+仲間からのアドバイス) ・置けるように努力をした、相手をよくできた 次に向けての課題 → 提出BOXへ アイコンタクトや声の大きさをよくしたい、内容をもっと詳しく聞いて いる人へ質問をできるようにしたい	第 1.5 回「お気に入り紹介」の後の練習 目的：人や物のよさを伝えられるように 配慮：クラスメートに伝える→伝わりやすいか考える アイコンタクト → B 英語らしい話し方 → B 内容の面白さ・工夫 → B つなげる努力 → B 良かったところ(自分の考え+仲間からのアドバイス) ・ジェスチャーを忘れずにした ・相手の反応などつまらなくならないように質問したほうが良かった 次に向けての課題 → 提出BOXへ アイコンタクト 質問をいくつか入れる 言うことを覚える	第 1.5 回「お気に入り紹介」の後の練習 目的：人や物のよさを伝えられるように 配慮：クラスメートに伝える→伝わりやすいか考える アイコンタクト → c 英語らしい話し方 → A 内容の面白さ・工夫 → B つなげる努力 → c 良かったところ(自分の考え+仲間からのアドバイス) ・あまり言葉が詰まらなかったからよかった 次に向けての課題 → 提出BOXへ ・アイコンタクト ・つなげる努力
--	--	---	--

実践② 話すこと【発表】

「既習表現の定着・強化」と「自分の考えや気持ちを表現すること」改善のための授業アイデア例【小中連携、音から文字へ】

◎学習指導要領目標

(4) 話すこと【発表】

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

(5) 書くこと

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

○学習指導要領言語活動の例

オ 話すこと【発表】

(7) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。

(4) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

カ 書くこと

(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

(単元名) Our Project 2 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂) 他
各 PROGRAM の Scenes や Think で指導することも可

「書くこと」の無答率が高いという現状に対する取組として、1年生段階から、小学校で習った表現の積極的な活用に取り組んだ。生徒が1学期に自己紹介文を書いた際には、小学校で習った内容を想起させることで、英語表現がわかるという自信を引き出すことに留意した。中学校で扱う内容の中には、小学校において音声で慣れ親しんできているものが数多くあり、教科書で扱われていた場面を話題に出すと、生徒たちの記憶に残っているものが多かった。

小学校で習った表現を繰り返し活用する機会を設定する

小学校で習った表現の中から自己紹介に使えるものを生徒に尋ね、既習表現の確認を行う。

- ・名前(My name is ~ / I'm ~) ・好きなもの(I like ~) ・持っているもの(I have ~)
- ・誕生日(My birthday is ~) ・住んでいるところ(I live in ~) ・できること(I can ~)
- ・得意なこと(good at ~) ・したいこと(I want to ~) ・将来の夢(I want to be a ~) など

①My name is _____. I'm from Iwate. I live in Morioka. I can play badminton. I'm good at Origami. My birthday is February 4th. I'm twelve.

②My name is _____. I can play baseball. I'm on the baseball team. I like video games. I want to go to Hokkaido.

③I'm _____. I like Kirby. It's so cute. I have Kirby games. It's very fun. I want to go to Kirby café.

④I'm _____. I'm from Iwate. I'm a junior high school student. I can run. I like idols.

〔自己紹介をする英作文〕

小学校で音声を用いて学習してきた内容が多く含まれている。英語表現自体はわかったうえで、書く活動に移行することが可能。

①This is my mother. She cooks very well. She likes hamburgers. She doesn't play games. She wants to go to the U.S.

②This is my friend. She is smart and kind. She is a member of the track and field team. She is my hero because she runs fast.

③This is my friend _____. She has one sister. She likes games and sports. She plays basketball well. She is good at jumping rope.

④This is _____. She is my friend. She is very kind. Her birthday is May 6th. She has a rabbit. She is very cute.

〔身近な人を紹介する英作文〕

中学校で新出の表現を小学校の学習内容と結び付けて活用する例。生徒たちは音声を用いて学習することに慣れているため、音声での練習の後、書く活動に移行することで、よりスムーズに学習に取り組むことができると考えられる。

話すことで自分の表現を振り返り向上を目指す

My favorite person is Abe Hifumi. He is a judo player. I have three reasons. First, he is strong. He won gold medals at two consecutive tournaments. Second, he is cool. He is often on TV. Third, he is a good brother. He has a sister and he is kind to her.

I think it's nice, but I don't know the first reason.

I can say, "He has two gold medals."

My favorite person is Ohtani Shohei. I have three reasons. First, he is a major league baseball player. He is a member of the Dodgers. Second, he is an amazing player. He won MVP three times in dual-wielding. Third, he is from Iwate. There are many famous baseball players from Iwate.

I like him too.

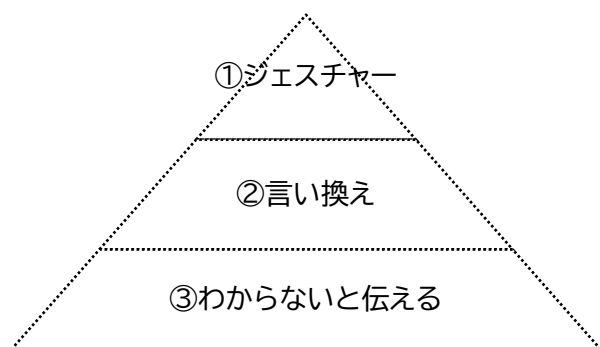
The second reason is difficult.

How about "He is good at pitching and batting," or "He is a good batter and a pitcher."?

自分が伝えたいことをうまく表現するために、タブレットを活用し、必要な語彙や表現を調べる。しかし、伝えたいことが相手にもわかりやすいとは限らない。そのため、マッピングをもとに話した後で、わかりづらい表現について自分で考えたり、ペアの人の考えをもとに修正したりする必要がある。その際には既習表現の中で、活用できるものがないかを考えるように促したり、例を与えたりする。

コミュニケーションストラテジー

即興で英語の会話ををする際には、特に英語が苦手な生徒は抵抗感を示し、会話が成立しなかったり、日本語で会話し始めたりしてしまう。段階に応じてコミュニケーションを助ける方策を提示する。



①まずはジェスチャーを用いて、相手に伝えられないか試してみる。

②ジェスチャーで伝えられない、もしくはわかりづらい表現は、簡単な表現で言い換えられないか考える。

③それでも伝わらなければ、日本語も交えて **I can't say "2刀流". What can I say?** などペアに聞いて、協力することで会話が成立することを教える。わからないと伝えられることも立派なコミュニケーションであるとし、自信をもたせる。

授業の際に使用する語彙のカードについて



性格や気持ちを表す形容詞を指導する際には、イラスト付きの語彙カードを使用する。ラインズ e ライブラリアドバンスのライブラリには、「いろいろカード帳」という機能があり、イラスト（及び音声）付きのカードを使用できる。学年を中学校と選択すると文字のみのカードとなるが、小学校を選択することでイラスト付きのカードを使用できる。（中学校の教材にも【絵を見て覚える】という文言が含まれるカテゴリにはイラスト付きのカードが収録されている。）「気持ちや人の状態を表す言葉」「ものの名前 食べ物」など、ジャンルごとに多くの単語を視覚的に学習することができる。日々行う言語活動の内容に合わせて

活用が可能な他、自己表現の際には、辞書的な使い方も可能である。中学校教科書付属の動詞のアクションカード同様に語彙定着に効果的であると考え。また、今年度から採用となった小学校外国語の教科書には、「My Picture Dictionary」というイラスト付きで単語をまとめた辞書が付属しており、今後、中学校での学習においても活用が大いに期待できる。

自分の考えや気持ちを表現する場面の設定

英語での会話をする際に活用できる表現集を生徒に提示する。即興で話す際に、自分の考えや気持ちを伝える活動に1年生段階から触れ、慣れていく必要がある。

自分の気持ちを伝える英語

英語	日本語
It's (nice / great).	いいね。
Sounds fun. It looks fun.	楽しそう。
I was moved.	感動した。
It's interesting.	興味深い。
It's (amazing / wonderful).	すばらしい。
I think he is (cool / funny / cute / beautiful / smart / kind / brave)	彼は～だと思う。

自分の考えを伝える英語

英語	日本語
I think ~.	～だと思う。
I like ~.	～が好きだ。
I want to ~.	～がしたい。
In my opinion,	私の意見では、
I think so.	私もそう思う。
I don't think so.	私はそうは思わない。

〔自分の考えや気持ちを表現するための表現集〕

「話すこと [発表]」から「書くこと」への丁寧な橋渡しを意識した 単元デザインと1単位時間の展開案

Our Project 2 この人を知っていますか (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 pp.69-75)

《単元ゴールの言語活動》

ALT の先生がアメリカに住む家族に教えてあげられるように、自分のお気に入りの人物を紹介しよう。

【話すこと [発表]】

《単元デザイン》

時	○学習活動
1	教科書 PP. 89-90 ○単元のゴールを共有する。 【目的・場面・状況】ALT の先生が冬休みにアメリカに帰り、家族と一緒に過ごすらしい。いま日本で流行している人や、日本のすごい人をアメリカの人に知ってもらうチャンスだ。 ○教科書のモデルを確認する。 ○評価の観点を共有する。
2	教科書 P91 ○スピーチ発表のための構想を練る。 ○お気に入りの人物について選んだ理由をマッピングで深める。
3	教科書 P92 ○マッピングをもとに即興で話したものにペアで考えを伝え合う。 ○スピーチ原稿を作成する。
4	教科書 P93 ○スピーチの練習を行う。 自分の発表を動画に撮影し、向上を図る
5	○スピーチを行う。 ○友達のスピーチに対して、質問や意見、感想を述べる。
後日	○(パフォーマンステスト) ALT の家族への手紙を書く。その中に、日本の自分のお気に入りの人物を紹介する内容を含める。

《本時の展開 (案)》

第3時 / 5時間中 (教科書 92 ページ)

	○学習活動
導入	○small talk ・教師とALT が前時に作成したマッピングをもとにお気に入りの人物について対話する。
展開	自分のお気に入りの人物を紹介するスピーチ原稿を完成させよう。 ○マッピングをもとに人物紹介【即興】 ・ペアの人は紹介された人物について自分の気持ちや考えを相手に伝える。 ・相手の表現でわかりにくいところがあれば、より良い表現を考えて伝える。 ○スピーチ原稿作成 ・ペアでの会話で考えたことをもとに、スピーチ原稿を作成する。 ・話すときよりも正確さに焦点を当て書く活動を行う。
終末	○今回、自分が使った表現を振り返る。

実践 ③ 書くこと	「自分が伝えたいことを整理し、相手意識をもって、まとまりのある文章を書くこと」改善のための授業アイデア例【相手意識】
	◎学習指導要領目標 (5) 書くこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ○学習指導要領言語活動の例 カ 書くこと (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。 ウ 読むこと (7) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。 (単元名) PROGRAM 5 The Junior Safety Patrol PROGRAM 6 The Way to School PROGRAM 7 Research on Australia (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂) 各 PROGRAM の Think で指導することも可

Think での実践

教科書本文 (Think) をいかし、1 年次から計画的・継続的に Retell から Rewrite を積み重ねることで、**相手意識**をもって**まとまった量**を「書くこと」の力を高めていく。

《相手意識》

・読み手、聞き手はだれか。どのような立場の人か。

《まとまり》

・相手が必要とする、知りたい情報はるか。

・相手に「なるほど…」と思わせる自分の考えなどが挿入されているか。

・文構成（導入・展開・まとめ）が意識されているか。

(例) PROGRAM 5

「日本で初めてホームステイを経験する外国人に、初日に、日本の生活習慣を説明しよう」と設定

↓ 生徒文

導入 Welcome to Japan!

展開 靴を脱ぐことや浴槽に入ることなど、Think 本文を

Retell・Rewrite

まとめ Let's enjoy together.

▼Think の学習活動例

Think ごとに	意識ポイント
内容理解 【Listen】	・聞く視点の提示 ・根拠となるキーワードの共有「どのような英語が聞こえたから、その考え（答え）になったのか？」
内容理解 【Read/黙読】	・目的をもった黙読 「答えの根拠となる英文やキーワードは？」 「話し手が一番伝えたい文は？」 「自分との相違・比較で気になった文は？」
発信準備 【Read/音読】	・意味内容にふさわしい音読 - デジタル教科書を活用し、個の目的・レベルに応じて、正確な英語の音声を繰り返し聞きながら音読練習 - 英語ならではの「発音クリニック」や、発話の意図や思い「○○だからこう読みたい」を共有した音読練習
発信 1 【Retell】	・伝えたい内容、キーワードの選択 ・複数回のチャレンジと途中のシェア - 「言いたいけど言えない表現」「工夫」「仲間からの学び」の共有 - 言い換えの訓練「習った表現を使えない？」



Think 全体を通して	意識ポイント
発信 2 【Retell】	- Think を通し、伝えたい内容の再構成 -相手への配慮「読み手、聞き手は〇〇。その時伝える順、興味を引き出す追加情報、関心をもってもらうための自分の考えは?」 - ロイロ提出により、内容を共有・再考 -内容面・言語面のブラッシュアップ -表現の修正の気付き
発信 3 【Rewrite】	目的・場面・状況を踏まえ、Retell をいかして書く



↑ PROGRAM7 発信準備【Read/音読】

「相手に伝えるために読む」意識を生徒と共有。デジタル教科書の活用方法を1学期に1時間体験的に学習し、生徒はそれぞれの目的やレベルに応じて音読練習に取り組む。

↑ PROGRAM 7 発信 1【Retell】

現段階ではキーワードを提示し、追加情報を加えたり、伝える順をメモしたりしているが、今後はRetellの為のキーワードも自己選択する。

PROGRAM6 での実践 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 pp.69-75)

《単元ゴールの言語活動》

映画「世界の果ての通学路」を知らない外国の小学生に、Think 1・2をいかして、「ぜひ映画を見てみたい」と思わせる紹介文を書く。【書くこと】

《本時の展開》

《単元デザイン》

第7時／9時間中（教科書 pp. 72～73）

時	○学習活動	○学習活動
1	単元の導入 ○ゴールの共有、「世界の果ての通学路」に関わる情報の事前収集、新出語句確認	導入
2	Scenes 1 ○him, her などの意味や働きの理解、話したり書いたりする技能	
3	Scenes 2 ○Why の疑問文、Because～. などの意味や働きの理解、話したり書いたりする技能	
4	英語のしくみ ○新出文構造のまとめ、演習問題	展開
5	Think 1、2	
6	○映画「世界の果ての通学路」について書かれた英文を読み、必要な情報を捉える	
7	ゴール活動	終末
8	○映画「世界の果ての通学路」を知らない外国の小学生に、紹介文を書く	
9	単元テスト（リスニングテスト含む） ○初見文章の読み取り、単元の振り返り	

- 1 Greeting、Small Talk
- 2 Review Think 1・2 の復習（音読）
- 3 課題把握
- 4 Think 全体を通した Retell の準備
 - ・デジタル教科書や事前情報をもとに、伝えたい内容のキーワードをメモする【個】
- 5 Retell の内容を構想する【個】
- 5 マップをもとに発表①【ペア】
 - 気づき、言えない表現の共有【全体】
- 6 Retell の再構成【個】
- 7 発表②【ペア】
 - 気づき、言えない表現の共有【全体】
- 8 Retell をいかし紹介文を書く【個】
 - ロイロ提出
- 9 次時の予告《第8時 再構成・再構築》
 - 互いの紹介文を読み合い、取り上げる内容や表現方法の違いなどを共有し、紹介文を完成しよう

▼生徒の第7時の紹介文 ※原文 (ALT 修正前)、言えない表現は日本語のまま

Hi. What dream do you have? ㊤

My dream is a first class architect.

Jackson and his sister lives in Kenya. He walks to school for two hours.

Do you want to walk to school for two hours? I don't want to walk to school. But he does every day. Why?

You can find the answer in the movie. And, 一緒に学ぶことの大切さを考えてみましょう。

↑【導入】映画の中でジャクソンの夢が紹介されていることを受け、自分の情報を追加したり、相手に夢をもっているかを問いかけてりすることで映画への興味を引き出す。

Do you want to walk 15km to school?

Jackson and his sister live in Kenya. Every day, they walk and run 15km across the savanna to go to school. The savanna is very dangerous. Because many dangerous animals like elephants attack. Their way to school is very hard, but they like study and they want to go to school! How about you? After watch the movie, 勉強に対する考えが変わるはず。

We are thankful that we can go to school.

Please watch the movie 世界の果ての通学路。

↑【展開】勉強嫌いが増えそうな小学生に、勉強したくても簡単にはできない子どもが世界にたくさんいることを伝えている。

Do you know the movie 世界の果ての通学路?

This movie is about Jackson and his sister.

They live in Kenya and walk 15 kilometers to school. It takes two hours. It's very long way. But, why do they walk two hours to school every day? Because they have dreams.

Do you want to know their dreams? だったら watch the movie and find the answer.

↑【まとめ】展開で、なぜジャクソンが2時間かけてまで学校に行くのかと問いかけ、その理由を知りたいなら、ぜひ映画を見てと誘っている。

How many minutes does it take to go to school? It takes 15 minutes for me.

How about Jackson? He lives in Kenya and he walks to school for 2 hours every day. The way to school is very dangerous but he want to study very hard. Why? Because he has a big dream. You can find Jackson's dream in 世界の果ての通学路。

It's a interesting movie. Please watch it.

↑【導入・展開】自分の通学時間とジャクソンの通学時間を対比させて、2時間もかけてまでも学校に行きたいという思いを伝えている。

外国語が苦手な生徒は、【展開】で本文をそのまま抜き出すが、その場合も目的に沿ってどの情報(英文)を選択するかを意識させる。

▼㊤の生徒の第8時の紹介文 ※原文 (ALT 修正前)

Hi. Do you like study? Do you want to go to school every day? Do you have big dream? If you say No, watch the movie 世界の果ての通学路。

In this movie, you can see a boy. His name is Jackson. Jackson lives in Kenya with his family. They walk to school for two hours. It's a very long and dangerous way. But they want to go to school. Why?

You can find the answer in the movie. After watch it, let's think about learning together.

↑ 第8時で互いの英文を読み合い、同じ読み手への問いかけでも「何を、どの順で、どこで」問いかけるかを工夫するだけで関心度が変わること気付き、出だしの導入に読み手の小学生を意識した疑問文と、その予想される答えを「If」を調べて表現した。

実践のまとめ

各領域における授業改善のための実践提案を進めたことにより、次のような成果や課題が明らかとなった。

《実践1 話すこと〔発表〕 中坂研究員》

- 3年間を見通した計画を生徒と共に立てたことで、生徒のモチベーション向上につながった。また、2年生CMの作成の様子も見ながら活動を進めたことで、来年度に向けて現時点で何を学習すべきか考えるようになった。
- 生徒達は、モデル動画や過去の先輩のスピーチ、実際に外国人に発表している様子を通して、「相手意識」を持ってコミュニケーションを図る必要性を感じることができた。
- ICTを活用することで、生徒の困り感や工夫の様子を効率的に見つけることができた。また、自分の得意な学習方法を見つけることで、学び方を自分で工夫する姿が見られるようになった。ペアの生徒も相手の得意・不得意に応じてアドバイスをするようになった。
- 「話すこと（やり取り）」の活動を毎時行っていたことで、話し手は相手に問いかけたり、反応を伺ったりすることが増えた。聞き手も、あいづちや反応をする意識が高まった。
- ALTの授業への参画が不十分だった。生徒の振り返りの際、一人ひとりに具体的なアドバイスをもらえるようにしておくことで、次の活動につながりやすいと感じた。
- 「表現の工夫」に対する修正は多く見られたが、「内容の工夫」に関する生徒の視点はまだ足りないと感じる。学年が上がるにつれ、内容の工夫は増えてはいくものではあるが、小学校で学習した内容や中学1年時の学習内容でも精選できる箇所はまだまだあるように感じる。
- 調べ学習でICTは活用しやすい反面、どこまで調べ学習を活用するか、明確な線引きができなかった。辞書指導や学習者用デジタル教

科書の活用方法等、生徒の学習方法の引き出しを増やしていきたい。

- 語順指導が不十分なことで、スピーチ作成時に困ってしまう生徒が見られた。早い段階で語順について学習する時間を取る必要性を感じた。

《実践2 話すこと〔発表〕 伊藤研究員》

- 小学校で何をどのように学んできているのかを考える機会となった。
- 小学校での学習内容を教師が理解した上で中学校内容の指導をすることが、生徒の英語に対する抵抗感を減らすヒントになることを実感できた。
- これまでタブレットに頼ってしまいがちな生徒が多いと感じていたが、小学校の学習内容を想起させることで、自分の力で英語を組み立てようとしたり、見えそうな表現を増やそうとしたりする生徒を育てられると感じた。
- 小学校外国語の授業の中で経験してきたことや学んできたことに大きな差が見られ、小学校で学習した表現や語彙の繰り返し学習では物足りない生徒もいる。発展させて、広がりのある指導とする工夫が必要である。
- 書くことへの抵抗感の軽減を目指し話すことの授業改善に取り組んだが、研究するにつれ、英語を用いることへの必要感をもたせたり、動機付けしたりすることへの研究の必要性を感じた。
- 既習表現を活用、振り返るための材料を提示しているが、生徒自身の判断で使えるように整理・精選が必要である。現状は様々な場所（タブレット・プリント・冊子・辞書）に情報がある状態で、生徒自身で使い分けられるようにするための指導や教師側の情報の与え方の工夫をしていきたい。

《実践3 書くこと 大澤研究員》

- 教科書本文について、Retell から Rewrite に取り組むことで、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の領域を統合した言語活動を展開すること

ができた。

○**Retell・Rewrite** を、単なる本文内容の **Output** と捉えるのではなく、実際のコミュニケーション場面に近い目的・場面・状況を設定することで、「相手意識」をもって伝える活動の必然性が生まれ、生徒の主体性につながった。

○**Retell** の土台となる音読の方法を工夫し、個のレベルや目的に応じて正確な英語の音声を聞いたり、語彙の確認をしたりなど、学習の仕方を丁寧に指導することが「自律した学習者」につながっていくと感じた。

○**Rewrite** を含めた「書くこと」の指導は、中学校1年生段階でも早めに開始していくことが、生徒の抵抗感の軽減につながっていくことを実感した。

○「言いたいけど言えない」表現を共有することで、辞書やタブレット端末に頼らずとも、既存の知識で「今の力で言える（言いたいことに近い）表現」を考えることができ、繰り返しの学習につながると考える。

●未習語彙についての、辞書やタブレット端末の活用方法を継続的に指導する必要がある。

●段階的に、**Rewrite** においては「メモだけ」で書くなどの力をつけるためにも、家庭学習指導を含めて語彙指導を充実させる。

●「書きたい（伝えたい）」気持ちを尊重しつつ、文法や語彙等の修正をどの段階で、どこまで指導して正確性を高めていくかは、指導者側の明確な単元（学期・学年）計画をもとに継続指導していく。

VI 研究のまとめ

諸調査結果の分析や授業改善の協議等を通して、改めて次の点の重要性を認識した。

- ①学習指導要領の内容を正しく理解すること。
中学校外国語科で育成すべき資質・能力を正しく捉えること。その上で指導にあたること。
- ②「言語活動」を通して資質・能力を育成する

授業を引き続き構想すること。

- ③「知識及び技能」を実際のコミュニケーションにおいて活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成する授業を、1単位時間のみならず、単元全体で構想し、指導にあたること。

以上の点を踏まえて提案した、各実践提案を参考に、各学年の授業改善が図られていくことを期待する。

結びに、本研究における実践例をもとに、諸調査や他教科等の学習、生活や社会において、今後も盛岡市の児童・生徒が、獲得した資質・能力を存分に発揮することができるよう、外国語授業の一層の質の向上を目指していきたい。

【参考資料】

- ・中学校学習指導要領解説【外国語編】
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】
- ・令和6年度学校教育指導指針（岩手県教育委員会）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査調査解説資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査調査報告書・結果資料（文部科学省、国立教育政策研究所）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査結果について（令和5年7月31日 岩手県教育委員会事務局学校教育室）
- ・令和6年度全国学力・学習状況調査結果について（令和6年7月29日 岩手県教育委員会事務局学校教育室）
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査教科調査分析資料
- ・令和4年度岩手県中学2年生英検 IBA 結果報告書（令和4年12月 岩手県教育委員会）
- ・令和5年度岩手県中学2年生英検 IBA 結果報告書（令和5年12月 岩手県教育委員会）
- ・小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年 文部科学省）